

経済史シラバスと若干の注意

2008年10月10日
小野塚 知 二

シラバス (『経済学部講義要項』2008年、6頁も参照してください)

講義の要項・目的

経済史は現在(いま)を理解するための有力な方法の一つです。現在の制度、慣行、政策などがいかにして形成され、変容してきたのか、つまり起源と来歴を知ることと、いまとは異なる経済・社会と比較して現在を相対化することが、この講義の基本的な眼目です。

われわれの生きる現在は近現代の末端に連なっているから、現在を社会科学的に知ろうとする際に重要なことは、近現代の社会・経済の特質を、その前史や成立過程とともに理解することです。本講義の Ⅰでは経済史学の課題と基本的な方法を概観し、Ⅱでは前近代(中世)西洋の社会・経済との比較から近現代の特質を論じます。Ⅲでは前近代から近代への長い移行期(近世ないし初期近代)を、Ⅳでは近代の市場経済・資本主義・産業社会・市民社会の構造と動態を、それぞれ欧米諸地域に即して解明します。(担当谷本)では日本経済を対象に、近世・近代の構造と動態を概観するでしょう。

なお、現代(20世紀)については経済学部専門科目2の現代西洋経済史、現代日本経済史などで詳細に講ずるので、本講義では近代までしか Ⅴあるいは、近代と一括できる限りでの現代しか Ⅵ扱いません。

本講義の構成はおよそ以下のとおりです。

導入

- 1 経済史とは何か
- 2 効率性と分業

前近代

- 1 総説：前近代と近現代
- 2 共同体と身分制
- 3 前近代社会の持続可能性と停滞
- 4 前近代の市場、貨幣、資本

近世

- 1 総説：前近代から近代への移行
- 2 市場経済と資本主義
- 3 近世の市場と経済活動
- 4 近世の経済と国家
- 5 近世の経済規範

近代

- 1 産業革命
- 2 資本主義の経済制度
- 3 国家と経済
- 4 自然と経済
- 5 家と経済
- 6 資本主義の世界体制
- 7 近代と現代

日本経済における近世・近代

- 1・2 世界の中の日本経済 比較と関係
- 3・4 制度変化と政策
- 5・6 労働・資本・産業化

教科書

なし

参考文献

講義開始後に文献リストをホームページに公開するほか、必要に応じて随時案内します。
その他（要望科目等）

12月まで小野塚が ～ を、以後、谷本が を担当する予定です。

配布物

履修上の注意、レポートの案内、その他、講義内容に直接関わらない配布物はすべて、ホームページ上(http://www.e.u-tokyo.ac.jp/onozukat/educational_j.html)に公開します(紙ベースでは配布しません)ので、適宜、参照・印刷してください。それらの閲覧には科目番号(1401)の入力が必要です。

質問と相談

質問は講義中随時受け付けますが、時間をとらずに簡潔に答えられること(たとえば私の言い誤りや書き間違いなど)に限ってください。その他の質問や相談は講義終了後受け付けます。ただし、講義後に時間の切迫した所用があるときは失礼することもありうるので、以下の方法を用意しておきます。

(1)私の研究室(本郷の経済学研究科棟9階910)を訪ねていただくのが、教養学部の諸君にご足労いただくのは面倒で申し訳ありませんが、文献等もその場で案内できるので最も適切な方法だと思います。他に用事がない限り本郷には月曜から土曜まで大概来ていますが、講義・会議・その他の用務で研究室にいないことも多く、いても多用で対応できないこともあるので、e-mail(onozukat@e.u-tokyo.ac.jp)あるいは郵便(〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学大学院経済学研究科・経済学部 小野塚知二宛)で事前に連絡して日時を決めておいた方が確実でしょう。

(2)質問・相談は郵便かe-mailでも受け付けます。すぐに返事を書けない場合もあるし、直に会うのと違って何度かやりとりをしないと埒のあかないこともしばしばなので、これは決して手軽な方法ではありません。

(3)多くの諸君に共通に関係しそうな重要な質疑応答はホームページ上に公開します。

その他の注意点

私語(および寝言・鼾・歯軋りなど騒音を発する行為)は厳に慎んでください。静かな居眠りや内職は目立たないようにする限り、特に咎めませんが、むろん居眠りや内職を推奨するつもりは毛頭ありません。また、講義中の出入りや携帯電話なども目障り耳障りなので慎んでください。

このほか、経済学部カリキュラムにおける経済史の位置、参考文献と講義の関係、単位取得の条件、成績評価の方法、高校の日本史・世界史との関係等々については、後日、あらためて案内します。